

# 農林水産大臣賞・秋田県知事賞

## 「ネギ(夏扇タフナー)」

経営規模

○ね ぎ：1・7 ha  
○水 稲：2・5 ha

清水 しみず

健吾 けんごさん

(能代市朴瀬字築法師)

## 4年ぶり2回目の 農林水産大臣賞を受賞



理想の白神ねぎを目指す

専業農家6年目で、みごと最高の農林水産大臣賞を受賞した、清水健吾さん。今年は、雨が多かったほか、たび重なる台風など天候不順で栽培が難しい年でしたが、清水さんのねぎは「品質の高い秀品」と評価されました。清水さんは、平成26年度にも農林水産大臣賞を受賞しており、4年ぶり2回目の大臣賞となります。

「農林水産大臣賞を狙った」を笑顔で話す清水さん。「今年のねぎは最低でも秋田県知事賞を受賞する自信がありました。ねぎ部会員をはじめ地域の先輩農家の方々のおかげで、自分の納得できるねぎをようやく作れるようになってきました。本当に感謝しています」と話してくれました。

栽培のこだわりは「何よりも病気をつけないのが1番」と清水さんは教えてくれました。そのため圃場の状態をみて防除を徹底しています。今年は雨が多かったほか、台風の影響で折れや曲がりの被害を受けましたが、軟腐病やべと病を発生させないように細心の注意を払い、高品質のねぎを生産目指しているねぎは「ぼけ」が無く、きれいで長い白根。その白根

にするため、葉の間に土が入らないように最後は手作業で土をかけ、機械だけに頼らず、ひと手間を惜しまない作業をしています。

また、新しい品種の栽培にも積極的に挑戦し、常に栽培技術の向上に余念がありません。様々な品種を試験的に栽培し、その圃場に合った品種を栽培することで、高品質な白神ねぎを生産しています。今回出品した「夏扇タフナー」という品種も、受賞者の中では清水さんただ1人でした。

今後に向けて清水さんは「さらなる栽培技術向上を行っていきたい。白神ねぎも有名になってきており、ますます高品質のねぎが求められてくると思う。市場、消費者の要望に応えられるよう栽培に励んでいきます。そして、今後も4年に1回ぐらいは農林水産大臣賞を取れるように頑張っていきたい」と話してくれました。

